

石西礁湖自然再生協議会についてのアンケート結果

①石西礁湖自然再生協議会における議事について

協議会で取り上げてほしい議事、紹介してほしい情報はありますか。

アンケート結果	事務局対応
<p>【取り上げて欲しい議事】</p> <p>① 石西礁湖自然再生協議会自体を現在の任意団体のままでいくのか、法人格を取得するなどについての検討をする時期ではないか?</p> <p>② 石西礁湖自然再生協議会または基金の法人化の有無に関する検討について。</p> <p>③ 石西礁湖の自然再生のための具体的なプログラムについて考える時期に来ているので、新しい取り組みを考えなければならない。</p> <p>④ 活動が盛り上がるような地域住民の意識に特化したワークショップの開催。</p> <p>⑤ 石垣市の総合計画について、サンゴ礁保全等の施策盛り込みについて意見提言を行う場の設置。</p>	<p>今後の協議会で議論すべき議題についての検討材料とさせていただきます。</p>
<p>【紹介してほしい情報】</p> <p>① 3月5日 サンゴウィークの取り組み。</p>	<p>本日、4その他（1）で石垣市観光協会さんからご報告いただきます。</p>
<p>② サンゴ礁基金の助成団体の活動報告。</p>	<p>平成 23 年度最初の協議会でご報告いただけるはずです。</p>
<p>③ 昨年 10 月の記録的大雨による影響がどれほどあったのか。</p>	<p>環境省ではモニタリングサイト 1000 調査や石西礁湖自然再生事業に係る調査を実施しております。</p>
<p>④ 現存しているサンゴで、環境変化に弱い種や急速に数が減少している種の情報。</p>	<p>これらの調査等で何か分かれば報告させていただきます。</p>
<p>⑤ 石垣、竹富、沖縄県における協議会の認知度。</p>	<p>今後、アンケート等の実施を検討して参ります。</p>

アンケート結果	事務局対応
<p>【紹介してほしい情報】(続き)</p> <p>⑥ 生物多様性保全地域戦略について。</p>	<p>沖縄県主催の下記講演会が開催される予定です。</p> <p><講演会></p> <p>「生物多様性と地域戦略のあり方について ー生物多様性地域戦略策定に向けてー」</p> <p>主催：沖縄県</p> <p>日時：2月11日(金)14:00～16:00</p> <p>場所：大浜信泉記念館2F多目的ホール</p> <p>講師：浅田正彦</p> <p>(千葉県生物多様性センター主査)</p>
<p>⑦ 来年度の環境省の生物多様性・サンゴ礁に関する取組。</p>	<p>サンゴ礁保全の総合的な取組を推進するために2010年4月に策定したサンゴ礁生態系保全行動計画に基づいた取組を実施し、その状況を点検します。</p> <p>(http://www.env.go.jp/nature/biodic/coralreefs/apc/index.html)</p> <p>また、今年度策定予定で現在案のパブリックコメント中の海洋生物多様性保全戦略の実施とともに、わが国における海洋保護区の設定等の施策を推進するため、関係省庁と連携した取組を行います。</p> <p>※参考：「海洋生物多様性保全戦略(案)」に対する意見募集(パブリックコメント)2月10日〆切 (http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=13389)</p>
<p>⑧ 沖縄県の再生事業が開始されることもあり、これまでの再生事業によるサンゴ礁再生の評価(どの程度の面積が再生されているのか?)と今後の展望について教えていただきたい。</p>	<p>これまでどおり年度毎の事業結果の概要をご報告するとともに、より詳細な情報の提供に努めて参ります。</p>

アンケート結果	事務局対応
<p>【紹介してほしい情報】(続き)</p> <p>⑨ 全国の自然再生推進法に基づく協議会活動などによる自然再生の成果がどの程度の進捗状況にあるのか。また、これら協議会活動の経験や知見の蓄積がどのように日本の自然再生に影響があるのか。</p> <p>行政は、この協議会をどう受け止め、公共事業や日常的な地方自治と国土、県土などの経営に反映させているのか。</p> <p>これを確認するためにはどうすればよいか。</p>	<p>1月24日、25日に環境省主催の自然再生協議会情報連絡会議が茨城県の霞ヶ浦で開催された。石西礁湖協議会からは吉田会長代理と事務局から佐藤自然保護官が参加しました。今後、協議会でも情報提供していきたいと考えています。</p> <p>また、各地域の取組状況については、環境省 HP 内の「自然再生ネットワーク」からご覧いただくこともできます。</p> <p>(http://www.env.go.jp/nature/saisei/network/index.html)</p>
<p>⑩ 沿岸域の総合的管理、サンゴ礁海域における海域保全再生（創造）事業の国内外の事例紹介。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ Reef Rehabilitation manual(サンゴ再生) http://www.gefcoral.org/LinkClick.aspx?fileticket=IR6CCRCqVtM%3D&tabid=3260 ・ 沖縄総合事務局:技術開発の取組(環境分野) http://www.dc.ogb.go.jp/kaiken/minato/005799.html ・ 沖縄県自然保護課 HP: 民間参加型サンゴ礁生態系保全活動推進事業の紹介 http://www3.pref.okinawa.lg.jp/site/view/contentview.jsp?cateid=70&id=19664&page=1 <p>※この他にも随時情報提供していきます。</p>
<p>⑪ 昨年12月に、水産庁が新たな漁場整備の方向性について基本方針を公表しているので、機会があれば情報を紹介していただきたい。</p> <p>(http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/keikaku/101209.html)</p>	<p>適宜、情報提供いただけるように事務局から働きかけます。</p>
<p>⑫ 沖縄県が検討している全県的なサンゴ礁保全事業や、赤土、港湾護岸、漁港漁場の情報提供等。</p>	
<p>⑬ 2010年5月に、西表・小浜間のヨナラ水道で八重山漁協が主体となって実施したナミハタの禁漁について（資源管理による自然保護と持続可能な経済活動）。</p>	

②石西礁湖自然再生ロゴマークの作成について

第13回協議会で普及啓発グループから提案のあった「石西礁湖自然再生ロゴマークの作成」について。

1. 新しいマークを作成する（7/33）

- ① サンゴ礁基金のロゴと兼ねるなら、もっと親しみやすいものに替えるべき。
- ② 新しいマークを公募すること自体が石西礁湖自然再生協議会について考えてもらえる良い機会となるのではないか。
- ③ 豊かな海を明快にイメージさせるデザインが良い。

2. 現在のマークをそのまま利用（26/33）

- ① ロゴマークとは別に、新たなキャラクターなどを一般公募することで普及・啓発に資する取り組みを行えばどうか？
- ② Yaima 号で世界一周された前田博さんがこのマークの入った旗をマストに掲げて、寄港するたびにアピールされてきたので、継続して活かせるとよい。
- ③ 協議会だけのロゴなら、今のままでいい。
- ④ 現在のデザインは親しみやすいし、2つあると混乱をまねく。

3. その他の意見

- ① ロゴ入りの協賛商品で、石西礁湖の宣伝と収入増大の両方をねらう。

③今後の取組体制（案）について

第13回協議会で普及啓発グループから提案のあった「今後の取組体制（案）」についてのご意見はありますか。

1. 提案内容をベースに「実働性のある取組体制」への移行を検討したい（26/31）

- ① 石西礁湖に関わる各種の協議会組織等（例：石垣島周辺海域保全協議会、八重山サンゴ礁保全協議会、八重山環境ネットワーク、海ラブネットワークなど）を統合する形で、八重山のサンゴ礁保全（生物多様性保全全般）に資する組織に改変できないか。
- ② 八重山には、国、県、市町の行政機関や研究機関が多数あるが、それらの通常業務の中にサンゴ礁保全を明確に組み入れ、実践をリードする仕組みを構築してほしい。
- ③ 当会の活動が、一般にほとんど認識されていないのではと危惧している。
- ④ 「実働性のある取組体制」に移行する場合は、現在のポータルウェブサイトで各グループに関する情報や、取組状況等が分かるような工夫が必要だと思う。
- ⑤ 議論だけでは、本当の課題がわからない。行動に移行していく時期であると考えている。

2. これまでの「協議、情報交換の場」のままだよい（2/31）

3. その他（3/31）

- ① 協議会全体のメーリングリスト以外に、グループごとのMLにて検討されている内容のサマリーや途中経過を知ることができると、連携による効果が期待できると思う。グループの協議内容が報告されて、それへの反応が協議会ごと（何ヶ月か後）になるというのでは、今の情報時代にあるツールをいかしきれていない気がする。
- ② 自由なテーマをときどき掲げて投げかけ、twitterのように気ままにのぞいて、気楽に反応できる交流の場があればどうか？
- ③ 石西礁湖自然再生協議会自体を現在の任意団体のままでいくのか、法人格を取得するなどについての検討をする時期ではないか。
- ④ 今の協議、情報交換だけでは、自然再生は無理だろうが、協議会がそのまま実施部隊となるかどうかは疑問である。組織だけ作っても動かない。誰がやるかが問題である。自発的なグループができるよう支援するのがいいのではないか。
- ⑤ 協議会メンバーの意見を参考に検討したい。

④石西礁湖自然再生協議会の運営について

協議会の開催時間、開催回数、運営についてのご意見はありますか。

- ① 質問③の組織改変、統合、連携等を行った後に、全体会合と個別WGの開催等の方法について協議を行ってはどうか。
- ② 金曜日の午後という開催が固定しているが、土曜の午後などはないのか。
- ③ 開催時間と開催回数については、現在のペースでもよいし、テーマにより、増やすこともできるとよい。
- ④ 開催回数を増やしてほしい。
- ⑤ 会議時間が長く、内容においても倦怠感がある。具体策についての取り組み方法を検討したほうがよい。
- ⑥ 年度単位で事業計画を立てて運営するため、年度の早い時期もしくは年度末に開催してほしい。
- ⑦ 農業関係者に参加してほしいが、日中は作業を行う必要があり参加できないとのこと。何か解決策はないか。
- ⑧ 協議会での実施内容について、現在のままでは漠然としているので、もう少し具体的に連絡いただきたい。
- ⑨ 行政担当者は業務としての出席のため、所属長あての依頼文が必要である。
- ⑩ 協議会に一度でも参加したことのあるメンバーに、その後も協力してもらうためのつなぎとなるようなサイトなどがあるとよい。転勤や異動で交替された方々との、つながりを持つコーナーなど。
- ⑪ 協議会には、なかなか出席できないため、メーリングリスト、Web等の活用をどんどん進めて欲しい。

⑤石西礁湖自然再生ニューズレター、ポータルウェブサイトについて

ニューズレターやポータルウェブサイト (<http://www.sekiseisyouko.com/>) で取り上げてほしい内容、紹介してほしい情報はありますか。

- ① 協議会メンバーの紹介。
- ② 支援専門委員会の開催案内。
- ③ 基金を活用して行った取り組みの紹介。
- ④ 沿岸域の総合的管理において、国内外の先進地の事例等の紹介。
- ⑤ 沖縄県が実施している赤土、港湾護岸、漁港漁場、サンゴ保全等に関する事業の紹介。
- ⑥ サンゴ礁保全につながる「なるほどサンゴサポートアクション&技!」の紹介。
(どんなに遠い因果関係の行動でも、いつかサンゴが元気になることにつながるとわかれば、多くの人々の賛同や日常行動を喚起して、大きなうねりにつながっていく。学術的な根拠があればさらによいと思う。)
- ⑦ NPO 法人海の自然史研究所が作成している「この先、海です。」というステッカーがあり、石垣市商工会議所で配布していた。これを利用できるようにしてはどうか。
- ⑧ 石西礁湖で実施されている調査等について、報告書を掲載して欲しい。
(更新が遅れており、最新の状況について不明なので。)

⑥2010年にやったこと、2011年にやること。

サンゴ礁のことを想ってやったこと、新年やりたいと考えていることをご記入ください。

<2010年にやったこと>

名前(個人委員:名簿順)	内容
鹿熊 信一郎	里海づくりの検討。
木村 匡	サンゴ調査を実施し、自然の回復がかなり見られました。
鷺尾 雅久	サンゴ礁基金の事業をスタートし、特に、陸域対策を始められた。
勝見 輝夫	地元の海(石垣・米原)での定点観察やサンゴの被害報告。
長田 智史	サンゴ礁調査。
吉田 稔	サンゴ礁保全活動の事例普及活動、基金での募金活動。
荻谷 直生子	子供の小学校校長先生に「ていだかんかん」を薦めた。 娘が体育祭でサンゴを守ろうTシャツを着て、アピールした。
大堀 健司	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもパークレンジャーで小学生を海へ連れて行った。 ・コーラルウォッチプロジェクトを行った。 ・観光で訪れた方にサンゴ礁の現状を伝え、普段の生活の見直しがサンゴ保全につながることを伝えた。 ・テーブルサンゴ型アクリルたわしを開発した。
栗村 友己	未来バンク理事長、日本のアルゴアと言われている田中優さんの講演会を8月に企画した。
名波 敦(西海区水産研究所)	沿岸資源の管理に関する生態調査(特にサンゴとの関わりについて)を行った。



名前（法人委員：名簿順）	内容
（財）WWF ジャパンサンゴ礁保護研究センター	世界海垣サミットの開催。
ハミングバード	観光客に対するサンゴカラーチャートを使ったガイド。
美ら島流域経営・赤土流出抑制システム研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・寄付。 ・分解が大変な洗剤を極力使わないで大掃除。 ・温暖化防止のための減CO2（げんこつ）。
（株）環境技建 ウェーブ	近場の海（沖縄本島、西洲周辺）にてシュノーケルでサンゴの観察。
（株）沖縄環境保全研究所	海に潜ったとき、オニヒトデがいた場合に駆除の実施。
八重山観光フェリー株式会社（黒島 一博）	海岸清掃活動 4回（新城島海岸：個人的活動）
鹿島建設（株）	サンゴの北限域調査(関東圏)に参加。
日本工営株式会社	低コストな対策手法（土壌藻類の利用、沈砂池堆積土砂の還元方法）の開発・公表。
サンゴ礁学	新学術領域サンゴ礁学として成果を出し、あと2年継続することが決定。

名前（行政委員：名簿順）	内容
沖縄県文化環境部自然保護課	サンゴ礁の全県調査（八重山、慶良間、久米島）。
沖縄県八重山事務所	沖縄県環境マネジメントシステムに従い業務を実施。
八重山農林水産振興センター農林水産整備課漁港水産班	資源管理に取り組む地元漁協で獲れた近海魚を優先的に購入。
八重山土木事務所（鉢嶺 貞雄）	石西礁湖でダイビングを行い現状認識をした。
沖縄県水産海洋研究センター（秋田 雄一）	石西礁湖 PV 活動で観察会の協力等。
沖縄県水産海洋研究センター（井上 顕）	シャコガイ母貝の設置。
西表森林環境保全ふれあいセンター	西表島南風見田海岸林の自然再生調査を実施。

< 2011 年にやること >

名前（個人委員：名簿順）	内容
鹿熊 信一郎	里海づくり
木村 匡	石西礁湖のサンゴ礁の自然の回復と人為的な再生の意義を考えたい。
鷺尾 雅久	サンゴ礁基金の事業の充実（寄付増大を含め）、基金のNPO法人化
勝見 輝夫	継続して地元の海の定点観察
長田 智史	サンゴ礁調査
吉田 稔	サンゴ礁保全活動の事例普及活動、基金での募金活動
苅谷 直生子	中村征夫さんが父兄におり、子供達にサンゴのお話を依頼したい。
大堀 健司	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもパークレンジャーを継続予定。 ・コーラルウォッチを広げていきたい。 ・枝サンゴ型アクリルたわしを開発したい。
栗村 友己	自然エネルギーへの転換の重要性についてイベントを企画したい。
名波 敦（西海区水産研究所）	引き続き沿岸水産資源の管理に関する生態調査

名前（法人委員：名簿順）	内容
（財）WWF ジャパンサンゴ礁保護研究センター	月桃商品の開発、販売。
ハミングバード	写真などを使った以前との比較紹介。
美ら島流域経営・赤土流出抑制システム研究会	名刺にロゴマークを入れて会話のきっかけとするなど相手の関心を喚起する。
（株）環境技建 ウェーブ	家族とシュノーケルでサンゴを見るエリアと機会を広げる。
（株）沖縄環境保全研究所	海岸に行った時に、可能な限り海辺のゴミも一緒に持ち帰る。
八重山観光フェリー株式会社（黒島 一博）	自社職員の意識向上活動、海岸清掃活動 職員全体で取組みたい（年2回）。
鹿島建設（株）	サンゴの北限域調査(関東圏)に参加。
日本工営株式会社	2010年の継続、普及に向けた活動。
サンゴ礁学	サンゴ礁学を確立するための研究を推進。

名前（行政委員：名簿順）	内容
沖縄県文化環境部自然保護課	サンゴ礁の全県調査（宮古、その他離島）、サンゴ礁再生実証事業。
沖縄県農林水産部漁港漁場課	ニライ 14 号（八重山西）の撤去にあたり、付着するサンゴの調査等ができればと思っている。
沖縄県八重山事務所	沖縄県環境マネジメントシステムに従い業務を実施。
八重山農林水産振興センター農林水産整備課漁港水産班	海中の状況を知るためにシュノーケリングを試みる。
八重山土木事務所（鉢嶺 貞雄）	上記に加えてさらに出来ることがあれば行っていきたい
沖縄県水産海洋研究センター（秋田 雄一）	引き続き PV の活動をおこなうのに加えて普及啓発活動を推進していきたい。
沖縄県水産海洋研究センター（井上 顕）	シャコガイの認知度を上げる。
西表森林環境保全ふれあいセンター	西表島南風見田海岸林への補植作業の実施。